

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

1

〈EKUTEBIAN VOL.8 JANUARY 1991-EKUTEBIAN〉

ベスト立川人・展'91開催 / 会期:1月13日～20日
会場:ウイル7F (17日休館)



まい あーと ■「祝い風」
by 金 幸雄



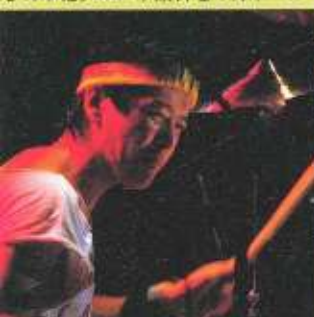
江本佳寧子さん(若葉町3丁目) 食べること大好き。作ることもっと好きの本格グルメが魚料理で日本一に



大森 明さん(富士見町1丁目) ジャズがもっている悲しみ、生の叫びをアルトサクスの託して奏でる



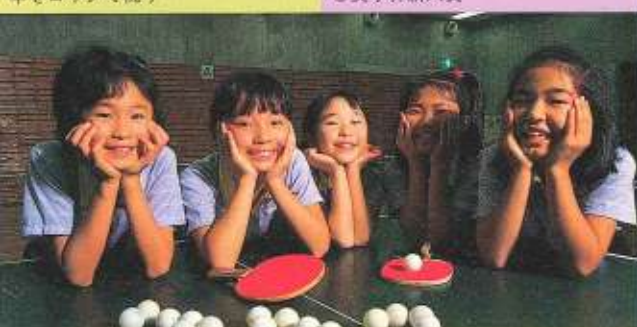
森部祥子さん(砂川町7丁目) 立川でおこなわれた新人音楽祭でみごと最優秀賞に輝く



フライングスカイ(柴崎町1丁目) 下谷一夫さんをリーダーに市制50周年をロックで祝う



河林 満さん(高松町2丁目) 高松児童館に勤務。「溺水」の作品でみごと文学界新人賞



立川ドリーム(錦町6丁目) 遊沢昇監督のもと、強豪を破りぬき全国大会へみごと出場



立川亭ポテトくん(羽衣町1丁目) 立川落語会最年少者。はなしのキレも小気味よい



高橋真理さん(若葉町4丁目) お馴染みの若葉町陸上部で鍛えた脚力。強化選手など活躍



宮城六郎・直子夫妻(曙町4丁目) 花の写真家として第一人者。夫唱婦隨のほほえましさもまた「自然の贈物」か



森道場の近江谷津くん・大迫政志くんとその仲間達(羽衣町1丁目) 国際親善大会へ



立川八中バトミントン部(富士見町7丁目) 全国大会団体戦にてみごと準優勝を手に



立川治美さん(曙町2丁目) ミス立川。選ばれたとき感激にむせて涙した純情派

市制五十年に沸いたわが立川が新しい年を迎えて、次なる指標の「市制百年」へと、はやくもその第一歩を印そうとしている。折も折、恒例の「ベスト立川人・展」が開催される(1月13日〜20日/於・ウィル7F)。この土地の風土と歴史のうえで、羅々として「わが道」をゆく立川人の表情は「百年へ翔べ」「街のひかり」だ。(※17日は休館となっております)

「ベスト立川人・展」がいよいよ1月13日から

百年へ翔べ!

明日の空へ

立川市制施行50周年記念式典が盛大裡に

立川市は八王子市につづいて、東京都で二番目に「市」として産声をあげ、はやくも五十年。いま半世紀、未来に向けて、このキャッチフレーズのもと、平成二年は記念行事にあげ、そして暮れていったと云っても過言でない。

市長のポブ・フォルコム氏夫妻ら海外からのお客さまも、目をひいていた。式典は市指定の無形民俗文化財である獅子舞で皮切られ、青木市長の式辞へとつづいてゆく。来賓の方々も、口を揃えてこの佳き日を契機として、新たな出発点として、ますますの発展を祈ります、と祝辞。



厳粛なうちに、なごやかに進む記念セレモニー

祝電披露などのあと、一応、閉式となったが、「少年の主張」で男女一各ずつの「主張」が述べられ、場の注目を集めていた。また、フィナーレの児童合唱で会場は一気になごみ、晴れの式典は幕を閉じた。

はあ、そのシメククリが、12月1日に市民会館で挙行された「記念式典」であった。

この日、市民会館大ホールにはほぼ満席のなか、鈴木俊一東京都知事、石川要三防衛庁長官らの来賓を迎え、また、立川と姉妹都市である米田サンバーナデイノ市からも

「表紙は語る」
まい あーと「深い風」 by 全 幸雄
極月が過ぎ、なにかこころのなかに心地よいシビレの様なものが響きわたっている。年がかわり、新しい年を迎える実感が湧きにくい昨今ではありますが、確実に人の数以上に、初日がココロの奥底に訪れているにちがいないようでありませう。さて今年一年の幕開けにふさわしくと、手作りのめでたい風を金幸雄さんにお願いをいたしまして飾って頂きました。

いつも、暮らしの友人。
出会いと別れを大切に、おつきあいを大切に、皆さまの暮らしをお手伝いします。
埼玉銀行

ことわざ問答
漢字一字挿入せよ
大鍋の●は撫でて●も三杯の●は桂馬の高飛びの餌食
1月20日
「立川市民新春かるた大会」
会場：高松会館
時間：PM1:00～6:00
申し込み：0221-4500
張野さんまで



「河」なんてですけど「川」の方がいいだろうって「立川」に。
明治28年に東京府に編入になりました、その後、府立二中が立川にできたのはやっぱり大きな力があつたんだと思えますね。一万坪の土地を幾人かの地主が提供したんですが、馬場重徳さん(柴崎町)の先祖の土地が多かった、一人の負担が大変だつて幾人かの村会議員が一人2反歩ぐらいずつ買いました。寄付したんです。八王子が有力だったんですけど、土地を寄付して二中をもつて来たんですね。(小川良さんの講演会、立川の思い出話あれこれ)より再録)

真如苑だより
明けましておめでとう御座います。この新年を、みずみずしい新年をお迎えのことと存じます。今年はどうな「福」がまわっていることでしょうか。お正月にはぜひ真如苑へも、おこしください。
日時 1月18日(金) 午後2時～4時
■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■立川市民(成人)に限らせて頂きます。
■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」(本誌)を手渡してくられた人へ。

立川クイズ
立川駅北口を北に進むと、緑川通りという東西に走る広い通りがあります。その通りの中央は緑地帯になっていて、今は葉ボタンがきれいに植え込まれ、いかにもお正月らしい雰囲気が出ています。この緑地帯は以前駐車場だったところ、その昔は川でした。川といっても自然のものではなく、
大雨のたびに駅前にあふれる水の排水対策としてつくられた人工の川です。緑川通りという名前のもととなったこの川、さて、現在はどうなっているのでしょうか。
①すっかり埋め立てられている。
②ほとんど暗渠となつていて、しっかりと流れている。
③駐車場をつくるために別の場所に移した。
【11月号の答え】
南北道路は多摩信本店先で高松通りからV字形に分れている道です。

今年も年賀ハガキが楽しみだゾー!
今年も38億枚もの年賀ハガキが、全国つづらうららに新年の真心こもる交換として送られた。また、立川でも215万枚以上の年賀ハガキが発売された。市制50周年を迎えたわが街も年々人口が増え取扱い数、配達数ともに昨年を20万通もの上回りととなった。
さて、曙町2丁目にある立川郵便局に大きな大きな象が置かれた。これ、なんと郵便課の杉本氏により作られた作品。9月下旬からの休みを利用して出来た大作である。

甲州街道サミットin'90
五街道の一つ甲州街道は今年開通三八〇年という年を迎え、11月24日(日)、25日(月)の両日、調布市主催の「甲州街道フェスティバル」が開催された。25日には、各市の市長が大名に扮し、江戸時代に行われた甲州街道結ばれた沿線の各市が一室に集し、「甲州街道サミットin'90」が行われ、盛りあがりを見せていた。

真如苑だより
発行所 えくてびあん編集部
〒201-15 東京都立川市富士見町2-20-15
パルクビューハイウェイ501-11H
電話 042-250-082
FAX 042-250-1297
編集人 立井啓介
発行人 沖野真男
印刷所 朝日大衆社

真如苑だより
平成三年一月一日発行
編集人 立井啓介
発行人 沖野真男
印刷所 朝日大衆社

東風
12月1日に立川市制施行50周年記念式典が市民会館で行なわれた。白眉はなんと云つても「市勢功労者」の表彰である。千三百人を越す方々が、その栄誉を授かったが、なるほど、ひとつの市がここまでくるには、こんなに多くの方々の力が結集されて成り立つものかと、改めて痛感し、感動的な式典であった。●功労者をつみながら故人になられた方のこと、選にはもれたが地域のために地道な努力を重ねておられる方のことなどを考え合わせると、ひと口に「五十年」と云つても、そこには立川人の「驚い」がこもっている。●本誌が創刊の頃から催してきた「ベスト立川人・展」は今回で6回目になる。こちらは「功労」といった意味合いはうすい。底辺にユートピアの感性が数かかっている。●「立川人」の表情を一堂に会してご覧いただけたら、というのが当初からの狙いであった。表情をとらえる、と云つても素人のパカチョンカメラでは茶の間では通じても、公に供することは出来ない。多くの写真家が協力してくださったことが、継続できている一番大きな力だ。しかし、こういう試みは一年か二年で底をつくだろうと担当者自身が思っていたものだが、立川十五万人の力は大きく、未だにその「底」を見せようとはしていない。●寒さ 顔見知るまでえくてびあん。

三鷹の山本有三さん

先人は未来の人に何かを残そうと力を振り
 絞り、今なる人々は尚更に未知なる民に継げ
 ようと知恵を湧かせる。三三には多くの文豪
 が宿っていた。多くの才人がいた。四つ川の
 の流れの袂に、この土をあたためてきた先人
 たちもいた。三三はそんな土も愛ある。

自然は命令をしない。
 自然は罰がない。
 だが、一秒たりとも
 なまけてはいない。

有三



立川発

カルチャートレイン

平日ほどの「小さな旅」へ
 出てみませんか。そこには
 思いがけなく自然が息づ
 いていたり、懐かしい「
 この人」に会えたり。



有三青少年文庫玄関



庭内にある顕彰碑



井の川の自然文化園



＊立川駅より徒歩約25分、三鷹駅から徒歩14分
 MEMO: 申し込みは、このチラシが
 〒182-8522 東京都立川市三鷹4-27-5122 となり